

## 本堂重要文化財



重要文化財に指定されている本堂は、明治以前は「方丈(ほうじょう)」とよばれていました。

方丈はもともと禅宗寺院では僧侶などの住居空間でしたが、仏壇などを置くことによって次第に本堂として使われるようになった建物のことをいいます。

平成11年に終了した半解体修理では、屋根瓦の銘や部材の墨書から、17世紀前半に建築された建物の部材を大半再利用しながら、規模を拡張し、天和3年(1683)に現在地に再建されたことがわかりました。



### 大安寺再建寄進者銘板

天和3年(1683)の本堂再建に結縁した堺人213名の名前を記した銘板。(堺市博物館寄託)



### 虹の手水鉢(ちようず)

側面に虹のような模様が浮き上がったため、明治天皇の行幸の際に「虹の手水鉢」と名づけられた、利休好の名品。



### 開山堂

宝永3年(1706)大安寺中興の大円長根(だいえんちんこん)が築尾村(現・津久野町)の豪農北村了貞の寄進により建立。



松木淡々頭巾塚(まつきたんたんずきんづか)  
松木淡々(1674~1761) 大坂生まれの俳人。堺に門人俳友を多く持ち、一時住まいもしていました。

## 龍興山南宗寺

南宗寺は弘治3年(1557)三好長慶が父元長の菩提を弔うために、大林宗套(だいりんと)を迎え開山とした臨済宗大徳寺派の寺院です。

仏殿は承応2年(1653)、山門は正保4年(1647)に建立されたことが棟札などでわかります。

大阪府下では数少ない禅宗様式の建物として貴重です。

ほぼ同時期に建立された唐門を含めた3棟が、重要文化財に指定されています。

また、方丈前の庭は江戸初期に作庭された枯山水庭園として国の名勝に指定されています。



## 宿松山海会寺

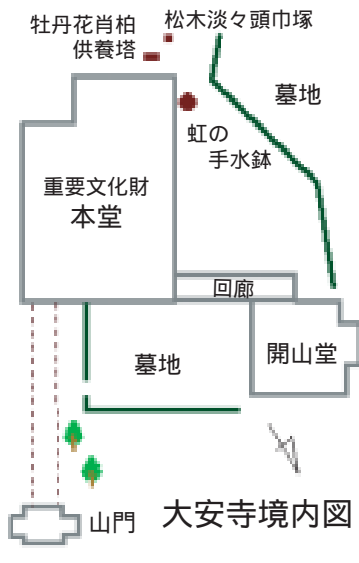


海会寺は元弘2年(1332)乾峯土曇(けんぼう)を開山として創建された臨済宗東福寺派の寺院です。大坂夏の陣以前は開口神社(甲斐町東)付近にありました。

本堂・庫裏は一体化して南面し、本堂のほぼ中央に独立した形で門廊(もんらう)が取り付いています。これらの建物はいずれも重要文化財に指定されています。

また、文和5年(1356)に、開山の乾峯土曇が序文を記した漢詩集である『牡丹花詩集(ぼたんか)』が堺市指定有形文化財となっています。

参加者の方へ  
建物内部での写真・ビデオ等の撮影はご遠慮ください。  
南宗寺の有料拝観区域については、別途拝観料が必要です。



発行：堺市教育委員会社会教育課文化財保護係  
堺市南瓦町3番1号 TEL072(228)7491  
ホームページ <http://www.city.sakai.osaka.jp>

平成14年11月3日(祝)

午前10時から午後3時まで

### 大安寺本堂

海会寺本堂、庫裏及び門廊

南宗寺仏殿・山門・唐門

旧第三幼稚園

(修理関連写真パネル展示)



# 大安寺本堂障壁画公開

重要文化財

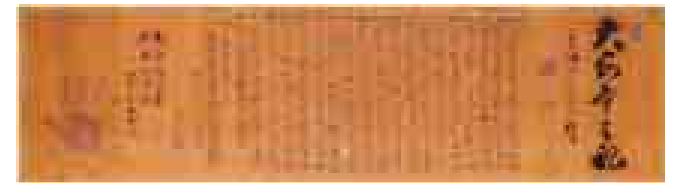
## 布金山大安寺



大安寺は室町時代の初め、応永元年(1394)に後小松天皇の命により、徳秀土蔭(とくしゆいん)を開山に、東福寺の末寺として建立されました。

創建当初は環濠内の中心部に近い場所に位置し、寺伝では、二町四方の寺域と六つの塔頭(たつづ)を有する大寺院だったと伝えられています。

慶長20年(1615)大坂夏の陣の兵火による焼失の後、元和3年(1617)には徳川秀忠から築尾村(現在の津久野町の一部)に朱印地を与えられるなど序々に復興し、慶安年間(1648~1652)に現在地に移転したと伝えられています。



### 大安寺之記

明治18年(1885)山岡鉄太郎(鉄舟：幕末の剣客・政治家)の撰文による大安寺本堂の由緒記

### 牡丹花肖柏(ぼたんか) 供養塔

牡丹花肖柏(1443~1527)は堺とゆかりの深い、京都の公家出身の連歌師。外出の時はいつも牛に乗っていたといわれ、江戸時代中頃に建てられたこの供養塔も牛に乗るかたちで作られています。



### 大安寺略年譜

1394	応永元	徳秀土蔭により開山
1615	慶長20	大坂夏の陣 中世の堺の環濠内はほぼ全焼
1617	元和3	徳川秀忠より朱印状をうける
1648~1652	慶安年間	現在地に移転
1683	天和3	現在地で再建
1706	宝永3	開山堂建立
1854	安政元	大地震、方丈修理
1892	明治25	室中の襖絵4枚盗難
1955	昭和30	本堂 重要文化財指定
1981	昭和56	本堂障壁画 重要文化財指定
1999	平成11	本堂修理事業竣工
2002	平成14	障壁画保存修理竣工

